健康一口メモ

仙台市医師会
広報委員
朝倉 徹

高齢者のポリファーマシー

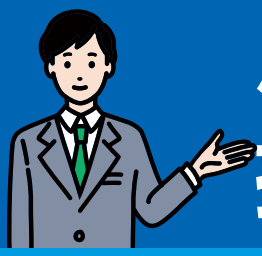
当院は介護老人保健施設を併設しているが、入所する高齢者の薬剤費は入所費用と包括になっており、施設の負担となる。昨今の入所者の中には、1日何千円もの薬代を払わなければならない方もおり、それだけで施設は持ち出し超過の赤字になってしまう。高額薬剤を服用している場合、入所前に継続の必要性を問い合わせて判定するが、入所後に判明することもある。したがって、施設長を併任している私が処方内容を見直すことにしている。最初は費用の削減が目的であったが、次第に必要性に疑問がある薬剤を極力減らすことに注力するようになった。何カ所もの医療機関から多数の薬剤を処方される方は、指示通り服用できずにかなり余らせていることも少なくない。

多数の薬剤を服用することで薬害有害事象のリスクが増加する状態を「ポリファーマシー」という。高齢者のポリファーマシーについては、老年医学会から指針も示されている。東大病院での調査では、高齢者の薬剤有害事象は10％程度認められ、特に6剤以上の薬を服用している患者に多くなるとされている。高齢者に多く見られる不眠、排尿困難、便秘、BPSD（認知症による行動・心理症状）などは老年症候群と称され、これらに対して薬物が処方される機会が増えている。しかし、これらの症状が薬の副作用である可能性もあり、例えば食思不振やふらつき、易疲労感などの非定形的な症状が精神安定剤や降圧剤などの副作用であることは十分ありうることである。

生活習慣病に関しては厳格なコントロールを目的に投与基準が示されてきたが、高血圧や糖尿病などでは、学会として高齢者の投与量は別途基準を設けていかにQOL（生活の質）を維持して健康寿命を伸ばすかが優先されるようになってきた。認知症患者に対する抗不安剤や向精神薬は、寝起きの調整や生活の平穏さ維持に欠かせないことが多いが、副作用の観点から過剰投与を避けるように示されている。しかし実際に、他の病院で処方された薬剤を削減するのは容易ではない。私は減薬する場合には担当薬剤師と相談し、安全性を吟味した上で決めさせてもらっている。

［JCHO仙台南病院／太白区中田町］

BtoBでの販路開拓・PRをお考えの皆さん



月報「飛翔」に広告を掲載してみませんか？

約9,200社の経営者へアピールができます！

例えばこのスペース（1/2ページ）の場合・・・

55,000円（税込）

サービスの概要はこちらから

お問い合わせ

仙台商工会議所　総務広報グループ（TEL.022-265-8182）まで